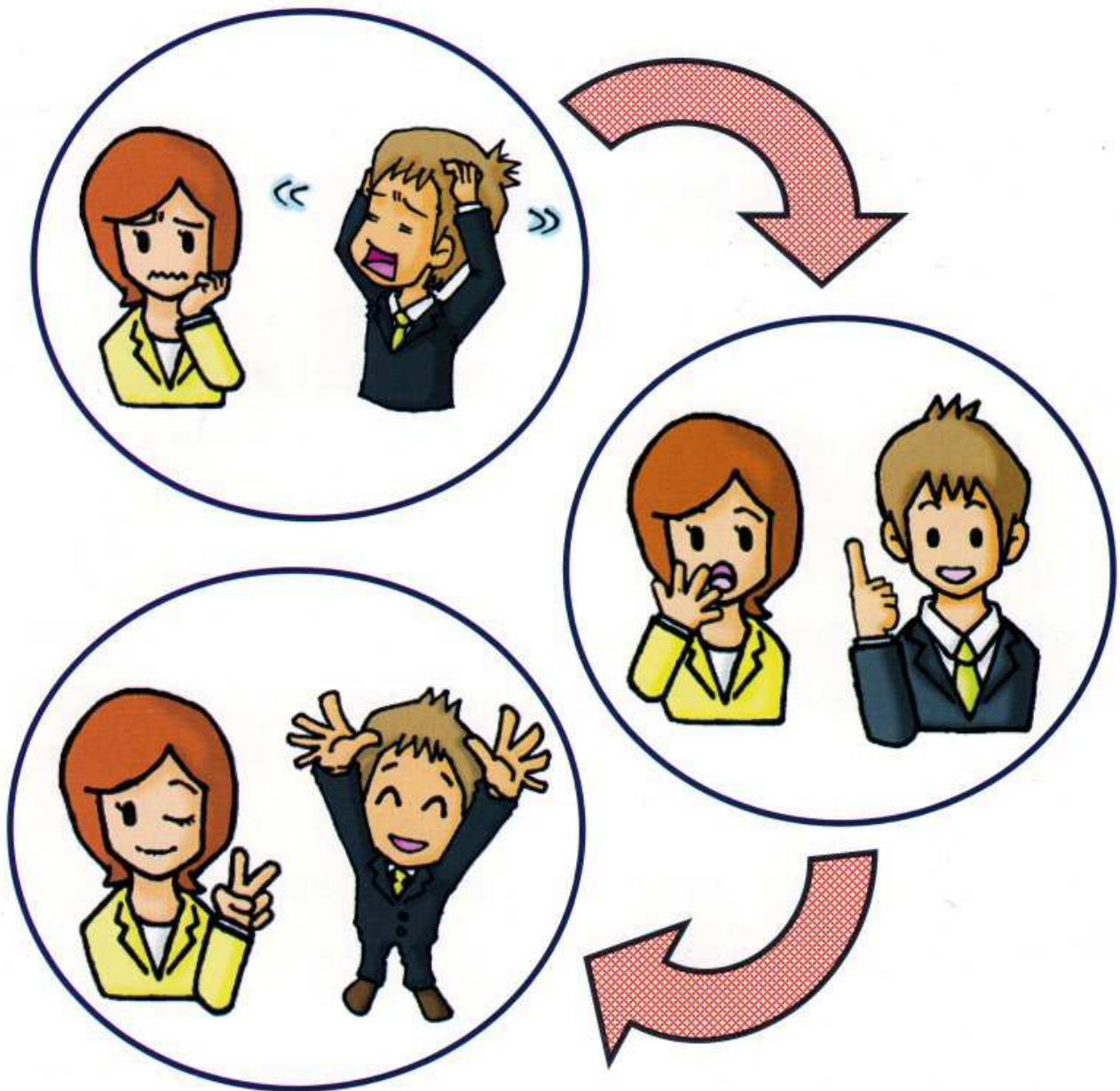


学校評価アンケートの集計



広島市立城山北中学校

学校評価委員会

平成23年度城山北中学校 後期学校評価の結果と考察について

【考 察】○成果 ●課題

I 評価アンケート回答率 (%)

	1年	2年	3年
生徒	98	86	87
保護者	70	55	63

【考 察】

- 前期と同様に2・3年生の生徒の回答率が低い。欠席生徒が多い、暮会に出ることができない生徒がいるという学年実態を反映していると考えられる。
- 多くの保護者の方にご協力をいただいたが、2年生の保護者の回答率が低い(前期より+4ポイント)。未だプリント類が保護者に届いていない等の課題もあるのではないかと考えられる。

II 確かな学力の向上

1 授業規律・規範(着ベル・あいさつ等の規律の確立、机・椅子の整頓、教室美化など学習環境整備)の確立

【結 果】

生徒は、「着ベルを守っている」について、肯定的な回答が約95%（前期と±0ポイント）、「きれいで整頓された教室で授業を受けている」について、肯定的な回答が約75%（前期より-5ポイント）である。教職員は、「こうした授業における学習環境整備・授業規律に関して指導・評価している」について、肯定的な回答は約95%（前期より-5ポイント）である。

【考 察】

○学年によって実態の差は若干あるが、全校生徒は、概ね着ベルについて意識して取り組んでおり、全体的に生徒及び教職員も取組に対する意識の高揚が見られる。本年度一年間、全校で取り組むこととして全教室に掲示したこと、1学年や2学年の学年生徒会のキャンペーン活動の取組、日々の担任だけではなく教科担任の授業での生徒への声かけや指導等が効果を上げてきていると考えられる。

●着ベルについては、学年によってはまだ生徒の意識の差がある。また、学校生活に慣れてくるにつれて、カバンをロッカーに入れることや机の整頓等の教室整備等、当たり前のことへの意識が一部の生徒及び教職員にも薄くなってきている状況がある。学校全体で、朝会時にカバンをロッカーに入れる等について、意識を持って粘り強く取り組んでいく必要がある。

●教室環境整備については、日々の授業時の指導、清掃時間の指導も含めて、「当たり前のことが当たり前ができる」ように、さらに充実を図っていく必要がある。

2 授業の「ねらい」の明示

【結 果】

生徒は、「授業のねらいがわかって授業を受けている」について、肯定的な回答は全体として約84%（前期より+9ポイント※特に3年生は+19ポイント）である。教職員は、「授業のねらいを授業はじめに明示している」について、肯定的な回答は約81%（前期より+11ポイント）であり、教職員もより意識した取組となっている。

【考 察】

○「ねらい」のマグネットを全教室に設置することで教職員の意識も高まってきている。

●未だ教職員が「ねらい」を提示していない、また、「ねらい」を口頭だけで伝えている場合もあるということが伺える。全教職員が、授業の中でのマグネットの活用を定着化させ、視覚的に「ねらい」を提示する授業づくりを推進する必要がある。

3 協同学習(ペアやグループで生徒同士が助け合ったり協力したりする学習活動)の取組

【結 果】

生徒は、「どの授業でもペアやグループで助け合ったり協力したりして学習する場面がある」について、肯定的な回答は約81%（前期より+2ポイント）であり、保護者は、肯定的な回答は約83%（前期より+7ポイント）である。教職員は、「ペアやグループによる協同的な学び合いの場を設定している」について、肯定的な回答は約63%（前期より-4ポイント）に留まる。

【考 察】

○多くの生徒、保護者は、授業の中で協同的な学び合いの場が設定されていると受け止めている。また、授業評価アンケートからも、生徒はこうした協同的な学び合いの場を大変楽しみにしているし必要としている。

○そうした生徒のニーズに応え、学力をつけていくために、教職員も、研修(授業研究)を積み重ねることで、理論や技法を習得し、意識は少しずつ高まっており、今後、益々授業の中で協同的な学び合いの場面が増えていくことが期待できる。

●引き続き、4人の学習グループづくり、協同的な学び合いの場面設定等について工夫していく必要がある。

●教職員は研修を積み重ねることで協同的な学び合いの授業づくりの意識の高まりは徐々にあるが、教科の特性や単元による効果的な授業の進め方等も踏まえて、さらに、生徒同士の良質な人間関係づくりと学力向上を図る協同学習について研修を積んでいく必要がある。来年度は、教務部と研究部がさらに連携して、年間を通して、年度初めから継続して協同学習に関する校内研修会を開催し、学校全体としてペアやグループによる協同的な学び合いの機会を増やしていく必要がある。

4 わかる授業づくりの推進

【結果】

生徒は、「どの授業もわかりやすい」について、肯定的な回答は約62%（前期より-2ポイント※特に、3年生は、+11ポイント、2年生は、-13ポイント）に留まるが、教職員は、「わかる授業を心がけて工夫している」について、肯定的な回答は100%（前期より+5ポイント）であり、前期と同様に、生徒の受け止めと教師の意識との間に差がある。

【考察】

○● 教職員は、わかる授業づくりを目指し努めてはいるが、生徒の「わかりにくい」という評価が依然として多い。こうした生徒の評価を受け止め、教科会や学年会において、授業について交流し、研修する時間の確保に努める必要がある。また、わかる授業づくりのため、協同学習の推進と研修を積み重ねていく必要がある。

● 授業規律の確立を図ることが急務であり、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めていく必要がある。また、合わせて、家庭学習の定着化を図っていくことが、「わかる授業」につながると考えられる。

5 自主学習ノートの活用・家庭学習の定着

【結果】

生徒は、「自主学習ノートを活用して、一日1時間以上家庭学習している」について、肯定的な回答は約62%（前期より+6ポイント※特に、3年生が+21ポイント）であり、保護者の肯定的な回答は約65%（前期より+9ポイント）であり、生徒、保護者ともに肯定的な回答が増えている。教職員は、「自主学習ノートを活用して、一日1時間以上の家庭学習の定着を図っている」について、肯定的な回答は約94%（前期より+13ポイント）であり、前期に比べ、生徒の実態と教職員の取組の差は埋まってきている。

【考察】

○半数以上の生徒は自主学習ノートの活用による家庭学習が定着している。

●3学年への進級に向けて、家庭学習が定着化する生徒80%を目指して取り組んでいく。

●この一年間の中で、家庭学習に対して意欲が低下してきている生徒が見られる。日々の習慣として当たり前の取組となるように、学校（学年）全体として共通認識を持ち、取組を徹底していく必要がある。また、生徒の動機付け・意欲づけのために、各クラスの自主学習ノートの取組方を交流する等、創意工夫を通して、個々の学力向上につながるよう内容の充実を図っていく必要がある。

Ⅲ 豊かな人間性の育成

1 清掃活動など校内環境美化の推進

【結果】

生徒は、「まじめに清掃活動に取り組んでいる」について、肯定的な回答は約85%（前期より+5ポイント ※全学年とも数ポイント上昇）である。中でも3年生は93%である。保護者は、「校内は、清掃活動や環境美化の取組が行き届ききれいである」について、肯定的な回答は約88%（前期と±0ポイント※特に、2年生の保護者は、前期より+6ポイント）である。教職員は、「日々、生徒と一緒に清掃に取り組むなど校内環境美化に努めている」について、肯定的な回答は約94%（前期より+3ポイント）である。

【考察】

○学年によって差はあるが、多くの生徒は、清掃時間に一生懸命に取り組んでいる。生徒の中には、腰をかがめてぞうきんがけ等を一生懸命にする生徒もいる。生徒会保健委員会による教室美化の表彰等が生徒の励みになっているものと考えられる。

●まじめに取り組む生徒とそうでない生徒に分かれている。一方で、土足で校舎内を歩く、唾を吐く一部の生徒がいる。そうした生徒にタイムリーに個別指導の徹底を図るとともに、清掃時間の充実に向けて、必ず教職員が清掃場所につき指導しながら一緒に掃除をする、反省会を必ず持つ、掃除監督の教職員と担任と連携した指導の継続、道具の整備、奉仕活動や協同作業の大切さに気付かせる心の育成など日々の取組を意識して取り組んでいく必要がある。

●汚れたまま、壊れたままにせず、その都度きれいにする、修繕する（させる）等してきれいな状態を維持し、当たり前にしていく必要がある。また、担任は放課後の教室環境整備を率先垂範して生徒とともに行う等、生徒の規範意識の高揚を図りながら教室環境美化に取り組んでいく必要がある。さらに、生徒会（保健委員会）の美化活動について、その取組のねらいや内容を、まず教職員（担任）が理解して受け止め、学級指導と連動させて効果的な取組になるようにしていく必要がある。

2 あいさつの励行

【結果】

生徒は、「授業の時間も含めて、あいさつをしている」について、肯定的な回答は約87%（前期と±0）である。保護者は、「子どもたちはよくあいさつをする」について、肯定的な回答は約78%（前期と±0ポイント）である。教職員は、「自ら生徒に対してあいさつをする」とともに、あいさつについて生徒に指導している」について、肯定的な回答は100%（前期より+14ポイント）である。

【考察】

○教職員をはじめあいさつに対する意識の高まりは学校全体にはあり、授業以外の場面で、自らさわやかなあいさつを交わすことができる生徒が多い。1学年生徒会の「ハローキャンペーン」等の取組等はとても効果的で、自らあいさつができる生徒が増えている。

●一方で、日々の授業場面や全校朝会など集会場面において、また、学年が上がるに連れて、あいさつができない生徒が目立つ。また、人間関係を反映してあいさつができたりできなかったりする生徒も目立つ。さらに、学年、学級によって差はあるが、朝のあいさつ運動でも、あいさつの声が出にくい生徒がいる（学級がある）。生徒会や学年、学級の取組とその評価を通して、生徒のあいさつへの意識を高めるとともに、PTAや地域の方々とも連携したあいさつ運動を行っていく等、取組の工夫に努めていく必要がある。

●授業場面では、全体的にはじめと終わりのあいさつができにくくなっている。教師がそうした状況をそのままにせず、その都度、教師が率先してさわやかなあいさつをする（見本を見せる）とともに、やり直しをさせる等の指導を継続していく必要がある。

3 教育相談の充実

【結果】

生徒は、「先生は自分のことをわかってくれようとしている」について、学年の差はあるが、肯定的な回答は全体としては約69%（前期より-1ポイント※特に、3年生は前期より+11ポイント、2年生は前期より-9ポイント）である。保護者は、「学校は生徒のことを理解しようとし、生徒との温かい関係づくりに努めている」について、肯定的回答は約77%（前期±0ポイント）である。教職員は、「生徒との共感的な生徒理解と温かな関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約88%（前期より+2ポイント）である。

【考察】

●前期と同様に、教職員の取組と生徒や保護者の受け止めには未だ差がある。このことは、アセス（学校適応感尺度）の教師サポートの生徒の受け止めの結果を見てもわかる。生徒の困り感や不安感（教育的ニーズ）を共感的に受け止めて理解し、生徒の受け止め方やコミュニケーションの取り方にも留意しながら、日々、生徒の思いを傾聴し、温かな声かけ等に努め、生徒との信頼関係を築いていく必要がある。

●日々の生活ノートへの共感的・支持的なコメント記入、教育相談月間での全ての生徒との面談、休憩時間や放課後の生徒とのチャンス相談やコミュニケーション、教科担任や学年教員との情報交換等を大切にして、生徒の「今」を掴み適切な支援を積み重ねていく必要がある。

4 規範意識・共感性の育成

【結果】

生徒は、「きまりやルールを守り、相手の気持ちを考えて行動している」について、肯定的な回答は全体としては約83%（前期より-1ポイント）である。保護者は、「学校は、決まりやルールを守る意識や相手の気持ちを考えて行動する力を育てている」について、肯定的な回答は約74%（前期より+1ポイント）である。教職員は、「生徒の規範意識や共感性を育てるように道徳教育の充実に努めている」について、肯定的回答は約88%（前期より+6ポイント）である。

【考察】

○学年の実態を踏まえ、学年代議員会を中心に、あいさつや服装容儀、授業規律等の取組をしたことは、生徒の規範意識を向上させる上で一定の効果があった。こうした生徒主体の活動を定期的に仕組み、学年集会等でその都度評価をし、生徒の意識の高揚を図っていく必要がある。

●学校生活の「今」（いいところ、課題となること）を取り上げて、道徳の授業や暮会等でのミニ道徳の中で扱い、生徒の心情に訴えながら常に規範意識や共感性を育むよう、心のたがやしを続ける必要がある。また、広島市「規範性をはぐくむための教材プログラム」を道徳の授業に取り入れたり、ライフスキル教育の充実に図り、生徒の規範意識や共感性の向上を図る必要がある。

●「言われるからやる」のではなく、自らマナーを守るという意識を持てるように、生徒に対して、マナーを大切にすることが、安心・安全な学校生活の基盤となることを理解させるとともに、学年の実態に応じて、継続して生徒の主体的な取組を推進していく必要がある。

●保護者の理解や取組の啓発を図るために、学校（学年）の実態やそれへの取組をタイムリーに情報発信していくとともに、本年度から実施したPTC活動等、保護者や地域の方々との「ふれあい」の機会を通して、生徒の規範意識や共感性を共に育てていく必要がある。

5 学校行事や生徒会活動等を通じた良質な人間関係づくりの推進

【結果】

生徒は、「学校行事や生徒会活動に積極的に参加している」について、肯定的な回答は全体としては約78%（前期より-6ポイント）である。保護者は、「学校は、学校行事や生徒会活動を通して助け合い交流する場を多く設定し、よりよい人間関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約80%（前期より-1ポイント）である。教職員は、「学校行事や生徒会活動等を通して生徒同士の良質な交流の場を多く設定し、良質な人間関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約88%（前期より+2ポイント）である。

【考察】

○生徒の評価は、前期より-6ポイントとなっているが、年間の大きな行事が終了した段階での評価なので、こうした結果につながっているのではないかと考えられる。年間の大きな行事（体育祭、文化祭等）は、全体的に生徒の主体的な参加意識が伺える。

○9月に実施した小6児童中学校体験は、小6児童に関わった中学生（1・2年生）も生き生きとサポート活動をし、達成感が持てた。

○●1年生は、先輩たちの行事に取り組む姿を見て、来年度の行事への意欲が持てているようである。中堅学年としての自覚が持てるように、卒業式、入学式の取組を意欲的に進めるように指導していく必要がある。

●各行事の目的（良質な人間関係づくり）を再認識するとともに、その目的達成のための運営方法や指導方法（例えば、生徒同士が相互にサポートし合うような交流活動を仕組む等）を検討（研修）していく必要がある。

●学校行事や生徒会活動の取組における「生徒相互の関わり」という面での成果や課題を、その都度生徒に伝えながら、日々の良質な人間関係づくりにつなげていく必要がある。

●体育祭や文化祭、小6児童中学校体験等の行事や日常の生徒会（委員会）活動が、もっと生徒の主体的な活動となり、達成感や充実感が持てるように指導していく必要がある。

6 部活動の充実

【結果】

生徒は、「部活動に意欲的に参加している」について、肯定的な回答は約78%（前期より-5ポイント※特に、1年生は-10ポイント）である。保護者の肯定的な回答は約90%（前期より-2ポイント）である。教職員は、「部活動指導を意欲的に進めている」について、肯定的な回答は約74%（前期より-16ポイント）である。

【考 察】

○●生徒は、全体的には意欲的に目的を持って部活動に参加しているが、1年生が前期に比べて-10ポイントとなっており、部活内での人間関係や技術向上等において不安等を抱えていることが推察できる。引き続き、顧問と担任とで連携を図りながら、部活動に適應できるように、生徒理解を深めながら適切な支援を継続していく必要がある。

●教職員は、日々部活動指導を行いたいと考えており、また、月1回は部活動指導優先日を設けて対応しているが、現実には、日々なかなか直接に部活動指導ができにくい現状がある。

●部活動に意欲的な生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。また、部活動に参加しなくなった生徒が、学校生活全体に怠学的になっている傾向がある。部活指導ができる時には、生徒の姿に対して「観る、聴く、語る」を心がけ、生徒理解を深めながら指導・評価していくとともに、年度途中の転部を、顧問間で担任とも連携しながらスムーズに行い、続けて、生徒が意欲的に部活動に参加していける機会を保障していく必要がある。

7 安心感のある学校生活

【結 果】

生徒は、「学校生活は安心して楽しい」について、学年間の差はあるが、肯定的な回答は全体として約71%（前期より-4ポイント）に留まる。保護者は、「子どもは安心して楽しい学校生活を送っている」について、肯定的な回答は約83%（前期±0ポイント）である。教職員は、「生徒が安心して楽しい学校生活が送れるように努めている」について、肯定的な回答は100%（前期±0ポイント）である。

【考 察】

○●教職員は、日々全ての生徒が安心して楽しい学校生活が送れるように努めているが、全体として約3割の生徒が安心した楽しい学校生活を送れていないと感じているという現状がある。その背景には、学年、学級の差はあるが、公共物が壊されたり、私物が隠されたり紛失したりすることや、人間関係のトラブル等があること、また、教室美化や授業規律の徹底が不十分であったり、勉強がわからないということがあると考えられる。

●引き続き、授業規律の確立のための取組や、協同学習やライフスキル教育等の学級の良質な人間関係づくりの取組を継続し、生徒の学校生活への安心感や適応感を高めていく必要がある。また、教室美化等に取り組み、学習環境を整えていくことも重要である。

●人間関係や学習に対する生徒の不安感や不快感は見えにくく、アンケート調査等の結果も踏まえながら、日頃から生活ノートの取組等を通して、早めに生徒の不安感や不快感等を把握するため、生徒の声(思い)を聴いたり、配慮ある声かけをしたり、頑張っていることを肯定的に評価して伝えたりすることを行い、共感的な姿勢で生徒に関わっていく教育相談活動の充実を図る必要がある。

●教職員間で、常に「報告・連絡・相談」を大切にするとともに、担任だけではなく、学年をはじめとするチーム対応を基本として迅速に対応することに努める。

●生徒会活動や学年集会等において、生徒が主体的に活動できる取組を増やし、「やればできる、楽しい」という活動を通して、生徒同士の「良質な交流(関わり)→良質な関係(つながり)→安心感のある楽しい学校生活」を保障していく必要がある。

Ⅲ まちぐるみによる教育の推進

1 情報発信による連携の取組

【結 果】

保護者は、「学校は、たよりやホームページにより、情報発信に努め、よりよく連携しようとしている」について、肯定的な回答は約86%（前期より+6ポイント）である。教職員は、「情報発信に努め、よりよく連携しようとしている」について、肯定的な回答は約94%（前期より+13ポイント）である。

【考 察】

○学年通信、進路だより、学校だより等の継続発行、及びホームページのタイムリーな更新により学校から情報発信に努めた結果、保護者からの肯定的な回答が6ポイント上昇した。

●生徒会だよりを発行し、生徒の頑張りや良いこと等もタイムリーに情報発信していくように努める必要がある。

●様々な便りが保護者に届いていない、ホームページを見てもらえていないという懸念がある。それぞれの情報発信の手立ての存在を保護者に理解してもらう取組を工夫する必要がある。

●様々なたよりやホームページによる情報発信が、保護者と学校を「つなぐ」よりよいコミュニケーションの手段となるように努めていく必要がある。

2 情報収集等による連携の取組

【結 果】

保護者は、「学校は、家庭訪問や地域訪問等により、情報提供や情報収集に努め、家庭や地域社会とよく連携している」について、肯定的な回答は約76%（前期より+2ポイント）である。教職員は、「情報収集やニーズの把握に努め、家庭や地域とよりよく連携しようとしている」について、肯定的な回答は約94%（前期より+13ポイント）である。未だ、保護者と教職員の認識には大きな差がある。

【考 察】

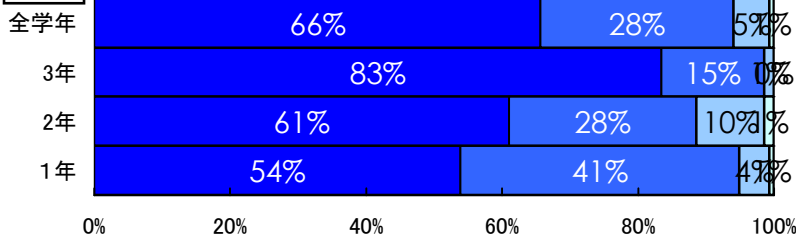
○学校としては、定期的また随時の家庭訪問・地域訪問や日々登下校指導を行った。また、夏季休業中に生徒会活動の一環として地域清掃活動に取り組んだり、9月に保護者及び地域の方々にもご参加いただいて校内外清掃活動に取り組んだりして、保護者や地域の方々には学校(生徒)の取組を理解してもらうとともに地域に貢献することができたのではないと思われる。

●引き続き、学年だより、学校だより、進路だより、ホームページ等により、生徒の状況や学校の取組について情報提供に努めるとともに、家庭訪問・地域訪問の時間の確保に努め、こうした訪問の機会に、学校側の一方的な関わり・情報発信とならないように、双方向のコミュニケーションを大切にしながら連携した教育活動を推進していく必要がある。

学校評価の集計(生徒)

【設問1】 毎時間の着ベルを守っている

後期

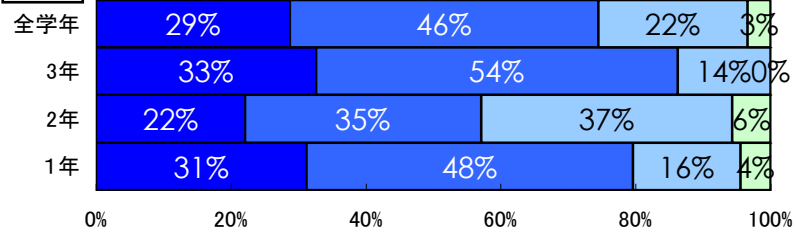


学年	4	3	2	1
全	66	28	5	1
3年	83	15	1	0
2年	61	28	10	1
1年	54	41	4	1

(数値=%)

【設問2】 毎時間、きれいで整頓された教室で授業を受けている

後期

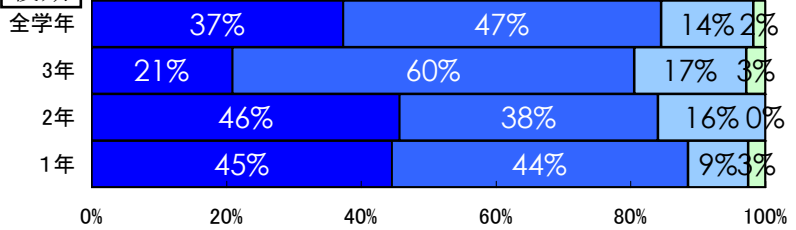


学年	4	3	2	1
全	29	46	22	3
3年	33	54	14	0
2年	22	35	37	6
1年	31	48	16	4

(数値=%)

【設問3】 授業の始めに、その授業の「ねらい(目標)」がわかって授業を受けている

後期

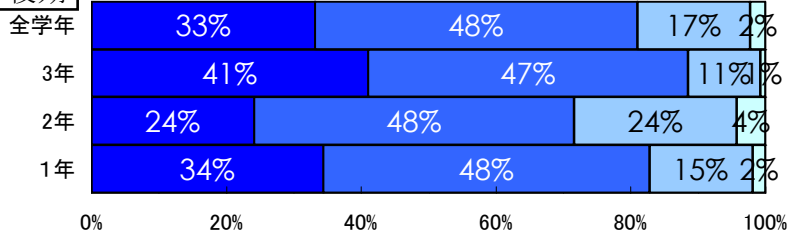


学年	4	3	2	1
全	37	47	14	2
3年	21	60	17	3
2年	46	38	16	0
1年	45	44	9	3

(数値=%)

【設問4】 どの授業でも、ペアやグループで助け合ったり協力したりして学習する場面がある

後期

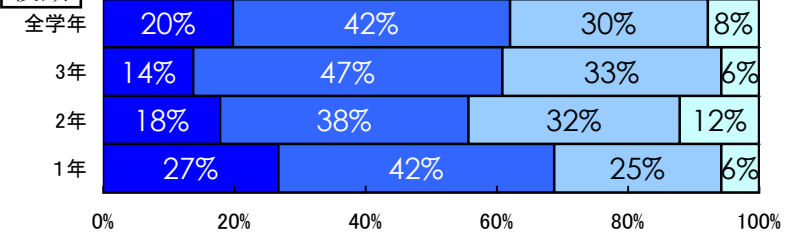


学年	4	3	2	1
全	33	48	17	2
3年	41	47	11	1
2年	24	48	24	4
1年	34	48	15	2

(数値=%)

【設問5】 どの授業もわかりやすい

後期

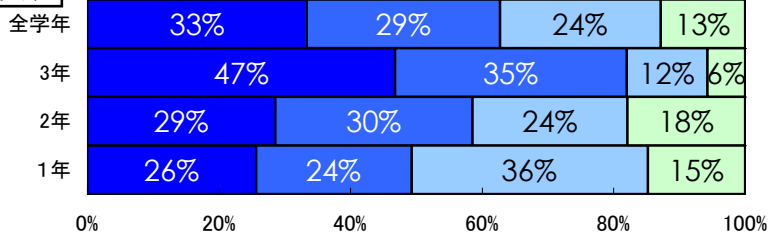


学年	4	3	2	1
全	20	42	30	8
3年	14	47	33	6
2年	18	38	32	12
1年	27	42	25	6

(数値=%)

【設問6】 自主学习ノートを活用して、1日1時間以上は家庭学習をしている

後期

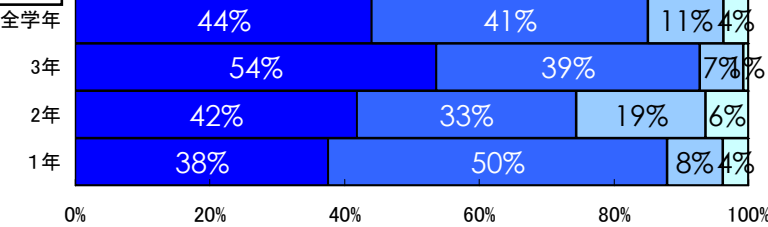


学年	4	3	2	1
全	33	29	24	13
3年	47	35	12	6
2年	29	30	24	18
1年	26	24	36	15

(数値=%)

【設問7】 まじめに清掃活動に取り組んでいる

後期

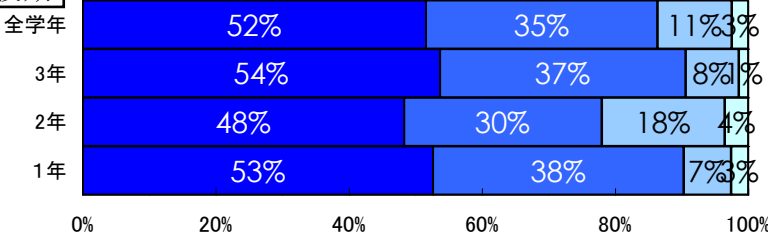


学年	4	3	2	1
全	44	41	11	4
3年	54	39	7	1
2年	42	33	19	6
1年	38	50	8	4

(数値=%)

【設問8】 授業の時間も含めて、あいさつをしている

後期

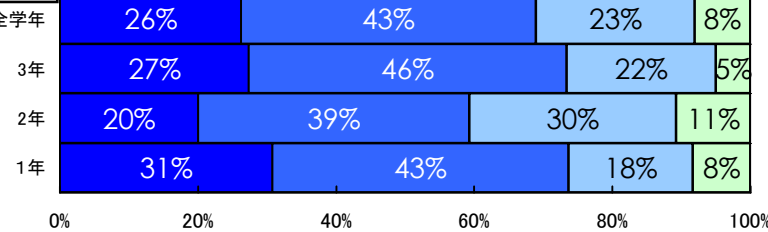


学年	4	3	2	1
全	52	35	11	3
3年	54	37	8	1
2年	48	30	18	4
1年	53	38	7	3

(数値=%)

【設問9】 先生は、自分のことをわかってくれようとしている

後期

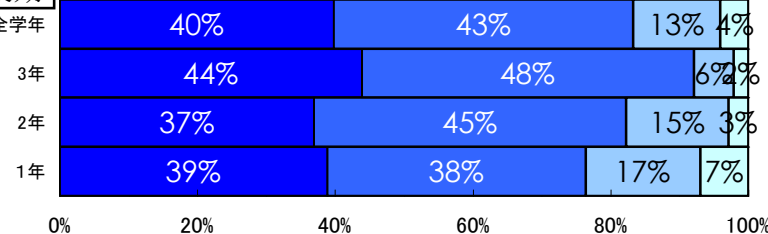


学年	4	3	2	1
全	26	43	23	8
3年	27	46	22	5
2年	20	39	30	11
1年	31	43	18	8

(数値=%)

【設問10】 きまりやマナーを守り、相手の気持ちを考えて行動している

後期

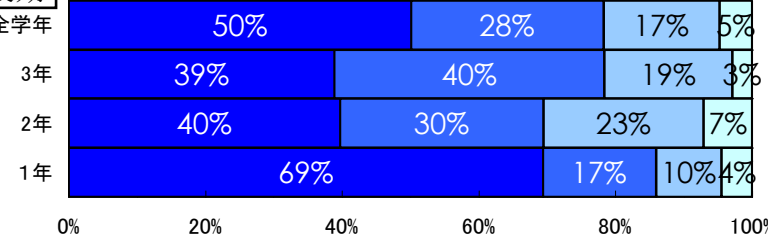


学年	4	3	2	1
全	40	43	13	4
3年	44	48	6	2
2年	37	45	15	3
1年	39	38	17	7

(数値=%)

【設問11】 学校行事や生徒会活動に積極的に参加している

後期

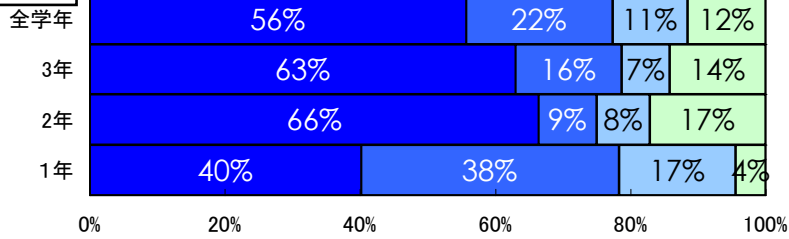


学年	4	3	2	1
全	50	28	17	5
3年	39	40	19	3
2年	40	30	23	7
1年	69	17	10	4

(数値=%)

【設問12】 部活動に意欲的に参加している

後期

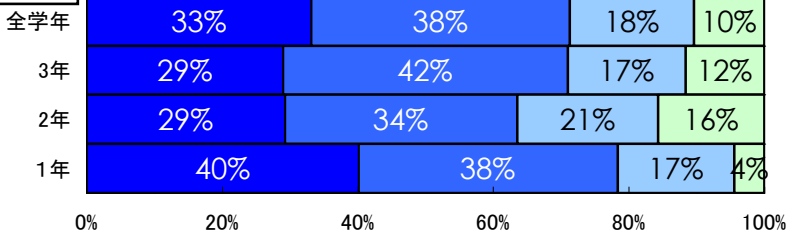


学年	4	3	2	1
全	56	22	11	12
3年	63	16	7	14
2年	66	9	8	17
1年	40	38	17	4

(数値=%)

【設問13】 学校生活は、安心して楽しい

後期



学年	4	3	2	1
全	33	38	18	10
3年	29	42	17	12
2年	29	34	21	16
1年	40	38	17	4

(数値=%)

評価指数

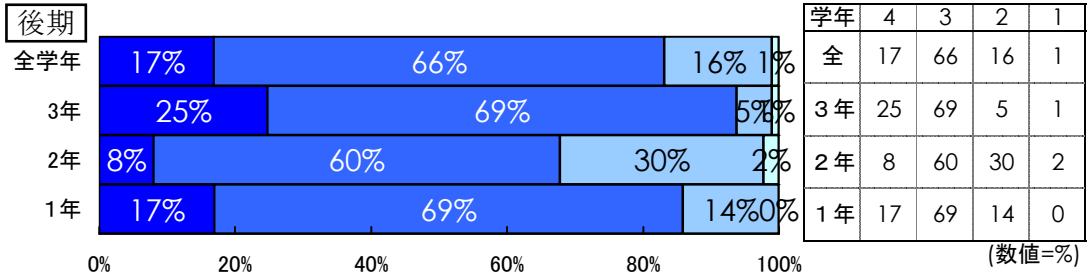
A : そう思う…+2 B : ほぼそう思う…+1
C : あまりそう思わない…-1 D : 思わない…-

* 回答者数および評価指数

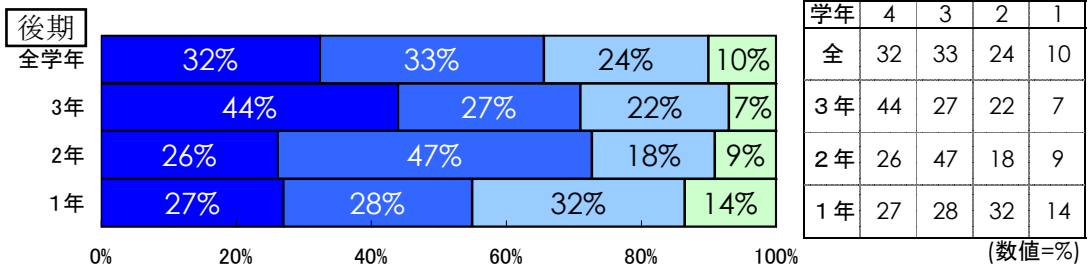
設問	回答者数(人)				評価指数(平均)				後期評価指数(全学年)		
	1年	2年	3年	全学年	1年	2年	3年	全学年	H23前	前後比	推移
1	156	141	139	436	1.4	1.4	1.8	1.5	1.4	0.12	↑
2	157	140	138	435	0.9	0.3	1.1	0.7	0.9	-0.14	↓
3	157	138	139	434	1.2	1.1	0.8	1.0	0.8	0.25	↑
4	157	141	139	437	1.0	0.6	1.2	0.9	0.9	0.07	↑
5	157	140	138	435	0.6	0.2	0.3	0.4	0.4	-0.03	↓
6	156	140	139	435	0.1	0.3	1.1	0.5	0.3	0.16	↑
7	157	141	138	436	1.1	0.8	1.4	1.1	0.9	0.20	↑
8	154	141	138	433	1.3	1.0	1.3	1.2	1.2	-0.00	↓
9	156	140	139	435	0.7	0.3	0.7	0.6	0.6	0.00	↑
10	157	141	139	437	0.8	1.0	1.3	1.0	1.0	0.04	↑
11	157	141	139	437	1.4	0.7	0.9	1.0	1.2	-0.15	↓
12	157	140	127	424	0.9	1.0	1.1	1.0	1.1	-0.14	↓
13	157	140	138	435	0.9	0.4	0.6	0.7	0.8	-0.15	↓

学校評価の集計(保護者)

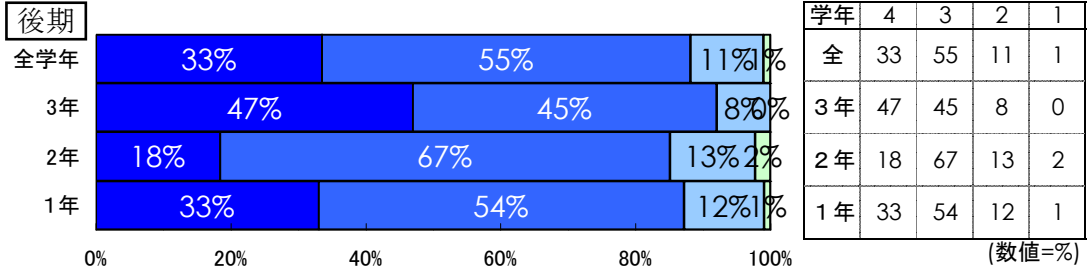
【設問1】 学校は、授業の中で生徒同士が助け合ったり協力し合ったりする活動を取り入れるなど、わかる授業づくりに努めている



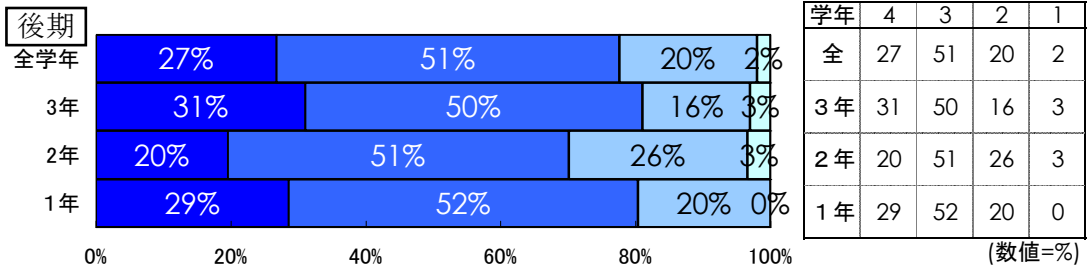
【設問2】 子どもは、自主学习ノートを活用し、1日1時間以上は家庭学習に取り組んでいる



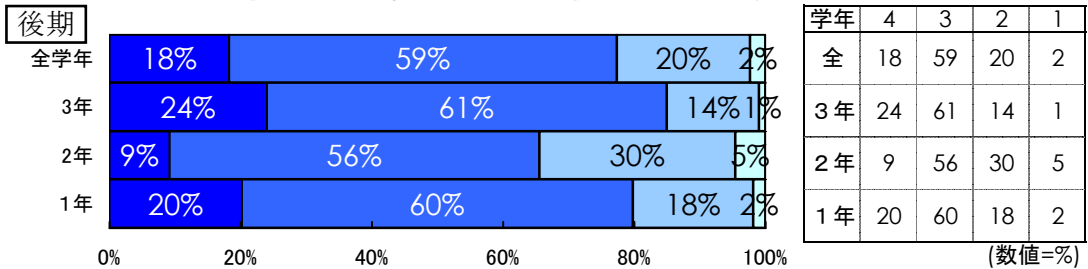
【設問3】 校内は、清掃活動や環境美化の取り組みが行き届き、きれいである



【設問4】 子どもたちは、よくあいさつをする

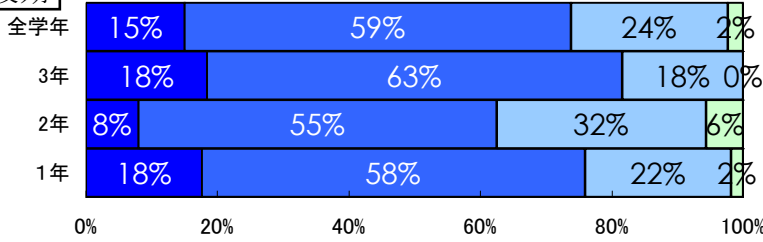


【設問5】 学校は、生徒のことを理解しようとし、生徒との温かい人間関係作りに努めている



【設問6】 学校は、子どもたちにきまりやマナーを守る意識や、相手の気持ちを考えて行動する力を育てている

後期

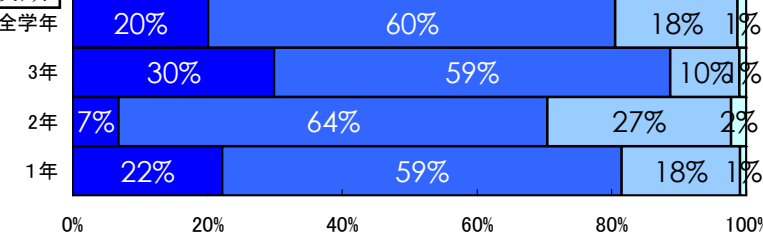


学年	4	3	2	1
全	15	59	24	2
3年	18	63	18	0
2年	8	55	32	6
1年	18	58	22	2

(数値=%)

【設問7】 学校は、行事や生徒会活動を通して、生徒同士が助け合い交流する場を多く設定し、より良い人間関係作りを努めている

後期

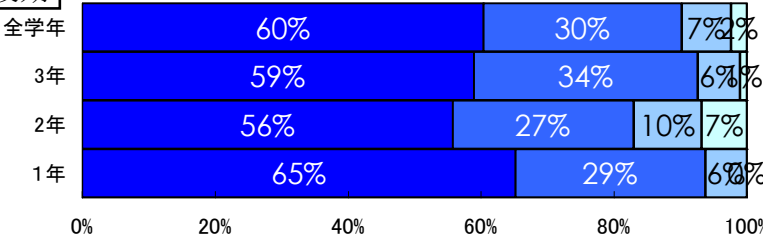


学年	4	3	2	1
全	20	60	18	1
3年	30	59	10	1
2年	7	64	27	2
1年	22	59	18	1

(数値=%)

【設問8】 子どもは、部活動に意欲的に参加している

後期

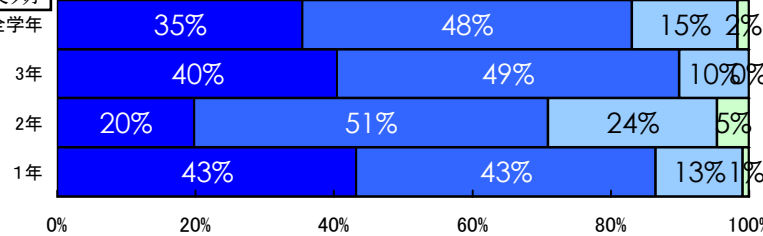


学年	4	3	2	1
全	60	30	7	2
3年	59	34	6	1
2年	56	27	10	7
1年	65	29	6	0

(数値=%)

【設問9】 子どもは、安心して楽しい学校生活を送っている

後期

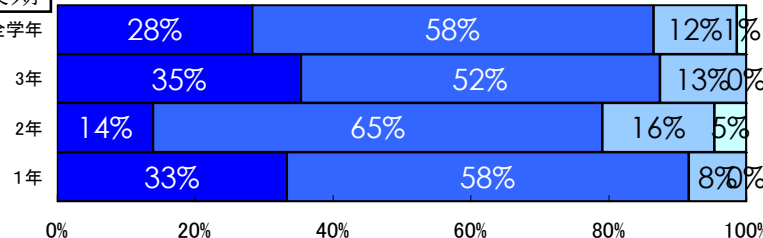


学年	4	3	2	1
全	35	48	15	2
3年	40	49	10	0
2年	20	51	24	5
1年	43	43	13	1

(数値=%)

【設問10】 学校は、お便りやホームページにより、情報発信に努め、よりよく連携しようとしている

後期

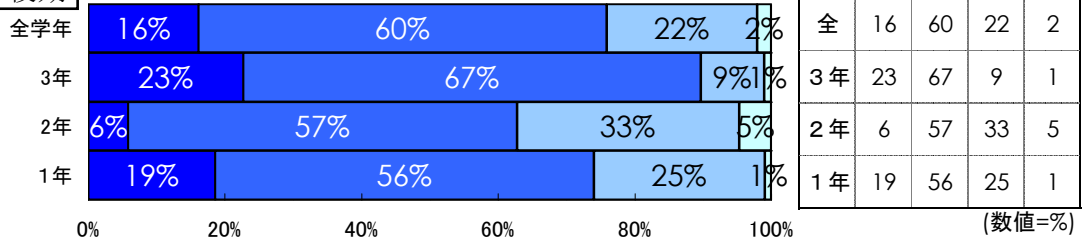


学年	4	3	2	1
全	28	58	12	1
3年	35	52	13	0
2年	14	65	16	5
1年	33	58	8	0

(数値=%)

【設問11】 学校は、家庭訪問や地域への訪問等により、情報提供や情報収集に努め、家庭や地域社会とよく連携している

後期



評価指数

A : そう思う…+2 B : ほぼそう思う…+1
C : あまりそう思わない…-1 D : 思わない…-2

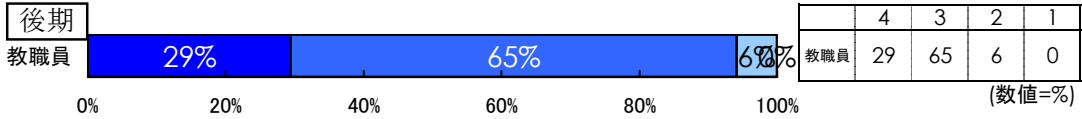
* 回答者数および評価指数

設問	回答者数(人)				評価指数(平均)				後期評価指数(全学年)		
	1年	2年	3年	全学年	1年	2年	3年	全学年	H23前	前後比	推移
1	106	87	97	290	0.9	0.4	1.1	0.8	0.7	0.2	↑
2	111	88	100	299	0.2	0.6	0.8	0.5	0.2	0.3	↑
3	109	87	100	296	1.1	0.9	1.3	1.1	1.1	0.0	↑
4	112	87	100	299	0.9	0.6	0.9	0.8	0.8	-0.0	↓
5	109	87	100	296	0.8	0.4	0.9	0.7	0.7	0.0	↑
6	108	88	98	294	0.7	0.3	0.8	0.6	0.6	0.0	↑
7	108	88	97	293	0.8	0.5	1.1	0.8	0.8	0.0	↑
8	112	88	95	295	1.5	1.1	1.4	1.4	1.5	-0.1	↓
9	111	86	99	296	1.2	0.6	1.2	1.0	1.0	-0.0	↓
10	108	86	96	290	1.2	0.7	1.1	1.0	0.8	0.2	↑
11	108	86	97	291	0.7	0.3	1.0	0.7	0.6	0.1	↑

学校評価の集計(教職員)

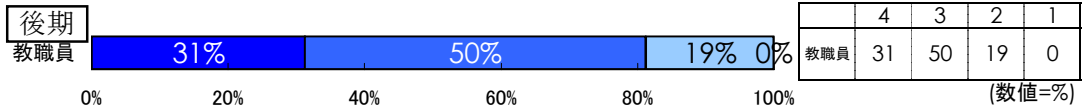
【設問1】

授業でのはじめ・終わりのあいさつ、着ベル、机・椅子の整頓などの学習環境整備など授業規律・規範について、毎時間の授業の中で指導・評価している



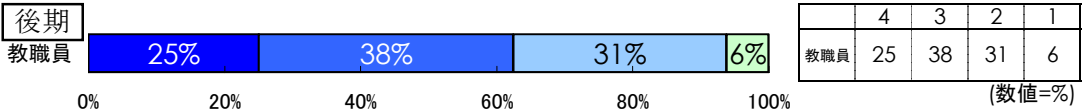
【設問2】

授業のはじめに、本時の「ねらい」を明示している



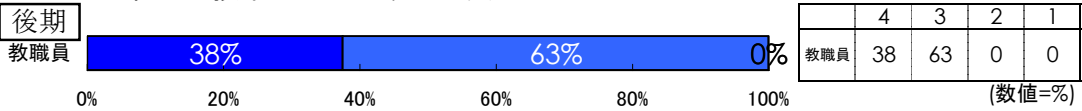
【設問3】

授業の中で、場面に応じて、ペアやグループによる協同的な学び合いの場を設定している



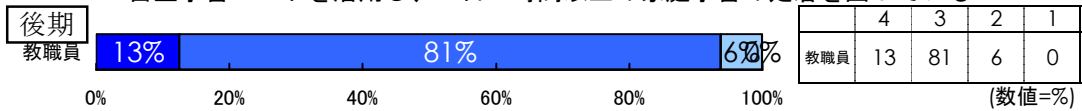
【設問4】

わかる授業になるように工夫している



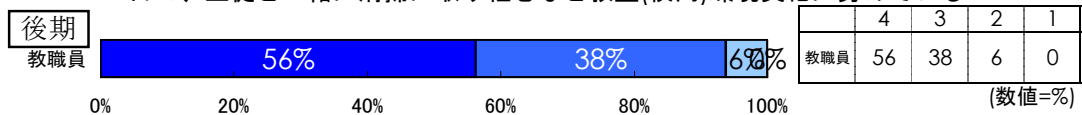
【設問5】

自主学习ノートを活用し、一日1時間以上の家庭学習の定着を図っている



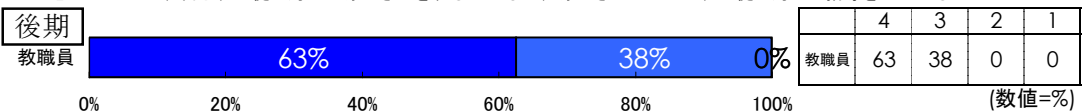
【設問6】

日々、生徒と一緒に清掃に取り組むなど教室(校内)環境美化に努めている



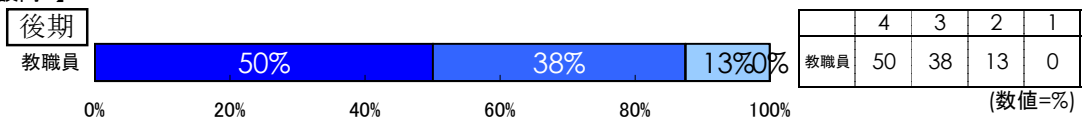
【設問7】

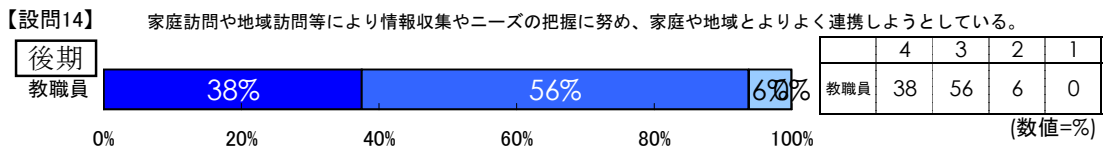
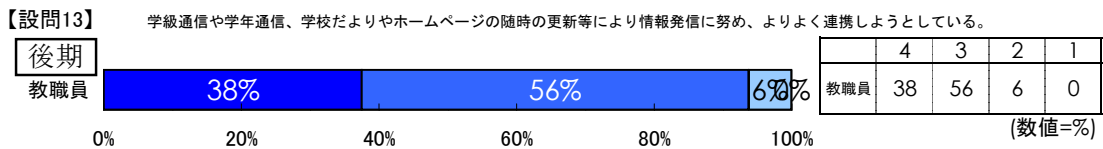
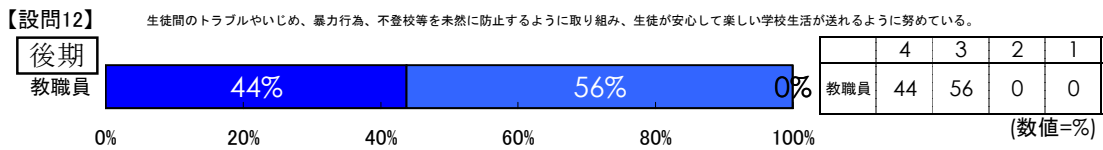
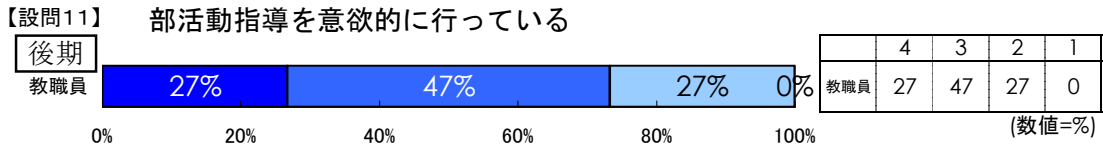
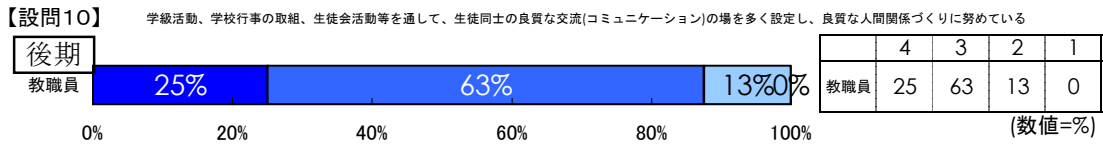
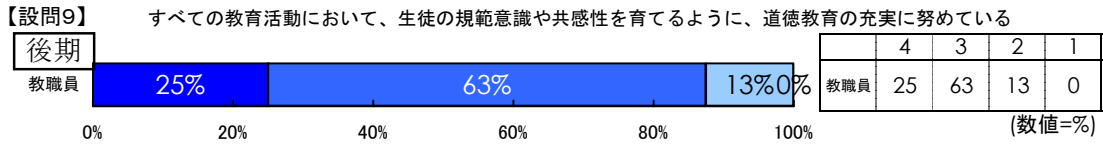
日々、自ら、生徒に対してあいさつをするとともに、あいさつについて、生徒に対して指導をしている



【設問8】

日々、生活ノート等を活用するなどして一人一人の生徒と教育相談活動を行い、共感的な生徒理解と生徒との温かな関係づくりに努めている





評価指数
 A：そう思う…+2 B：ほぼそう思う…+1
 C：あまりそう思わない…-1 D：思わない…-2

* 回答者数および評価指数

設問	回答者数(人)			評価指数(平均)			後期評価指数(全学年)		
	教職員			教職員			H23前	前後比	推移
1	17			1.2			1.1	0.1	↑
2	16			0.9			0.6	0.4	↑
3	16			0.4			0.5	-0.1	↓
4	16			1.4			1.3	0.1	↑
5	16			1.0			0.8	0.2	↑
6	16			1.4			1.3	0.1	↑
7	16			1.6			1.2	0.4	↑
8	16			1.3			1.0	0.3	↑
9	16			1.0			0.8	0.2	↑
10	16			1.0			0.8	0.2	↑
11	15			0.7			1.4	-0.6	↓
12	16			1.4			1.2	0.2	↑
13	16			1.3			0.9	0.3	↑
14	16			0.8			1.3	-0.5	↓